

廃炉基盤研究プラットフォームの位置付け及び活動内容

平成 27 年 12 月 3 日

廃炉基盤研究プラットフォーム準備会事務局

1. 廃炉基盤研究プラットフォームの位置付け

NDF が設置した廃炉研究開発連携会議では、同会議が基礎研究から実用化までの研究フェーズを一元的にマネジメントして実際の廃炉作業に結び付けていくこととなっている。

廃炉に向けた研究では、基礎・基盤研究、応用研究、実用化のフェーズが想定されるが、基礎・基盤研究のフェーズにスポットを当て、基礎・基盤研究の推進協議体として廃炉基盤研究プラットフォームを位置付ける。基礎・基盤研究が応用研究、実用化の下支えとなり、これらの成果が実際の廃炉作業につなげられるよう、NDF 戦略プランや現場ニーズを踏まえた基礎・基盤研究の全体マップを作成し、これに基づいた研究活動を行うことにより、廃炉の実現・加速に貢献する。

2. 廃炉基盤研究プラットフォームの活動内容

廃炉基盤研究プラットフォームは、JAEA 廃炉国際共同研究センター (CLADS) と MEXT 人材育成公募事業採択者の共同運営による基礎・基盤研究の推進協議体である。プラットフォームは広く開かれたものとし、国内外の多くの研究者、研究機関の参加が得られるよう運営する。NDF、IRID、東京電力及びその他関連機関はオブザーバーとして廃炉基盤研究プラットフォームの運営会議に参加する。

廃炉基盤研究プラットフォームは、廃炉に向けた基礎・基盤研究の中心的な役割を果たし、研究開発に必要な人材の育成・活用を行う。また、JAEA が整備運営する国際共同研究棟が参加メンバーの活発な研究活動の場となるよう仕組みを構築していく。参加メンバーは、研究テーマの公開等により広く周知して集めることとする。

(1) 廃炉に向けた基礎・基盤研究の中心的役割

廃炉基盤研究プラットフォームでは、NDF 戦略プランを参照しつつ、基礎・基盤研究としての研究開発マップを作成する。基礎・基盤研究マップは適時に更新し、広く基礎基盤研究・技術開発コミュニティーと、また、プロジェクト推進側と共有する。この際には、事業者である東京電力、応用研究を実施している IRID 等から 1F 廃止措置に向けたニーズを共有するために定期的な情報交換を実施する。同時に、顕在的なニーズにとらわれることなく、基礎・基盤の立場から全体を把握する努力を重ねることで研究開発をトータルに進める。また、これにより中長期のリスク管理に資する。

研究開発マップに示された研究を実施する際には、幅広い分野のメンバーの参

画により研究グループを構成する等して参加メンバーの力を集約する。また、バザールのアプローチを達成するために、廃炉に関わる課題を他分野の専門家に分かりやすく伝えることにより、可能な限り多様なプレイヤーの参加を求める。

(2) 研究開発に必要な人材の育成・活用

廃炉に向けた取り組みは非常に長い期間を必要とするため、基礎・基盤研究を行う上でも人材育成は不可欠である。そのために、JAEA と参加大学間で人事交流を促進する取り組みを行う。また、相互に研究交流を行うことにより人材育成を行う。人材育成というと学生を対象とした取り組みをイメージすることが多いが、国際共同研究棟の活用段階では若手研究者も視野に入れてキャリアパスの形成にも役立つような取り組みを行う。

(3) 国際共同研究棟の活用

国際共同研究棟を整備し、廃炉に向けた基礎・基盤研究の拠点とする。廃炉基盤研究プラットフォームは、国際共同研究棟の整備段階からコンセプトの作成に関与する。また、参加メンバーによる共同研究を実施し、研究設備の共同利用を行っていく。

福島県浜通りで展開される福島復興及び1 F 廃炉に向けた研究開発のシンクタンク的な役割を果たすような仕組みを構築する。

3. プラットフォーム形成にかかわる CLADS のこれまでの活動実績と当面の活動内容

(1) これまでの活動実績

1 F デブリ取出しに向けた事故進展挙動解析、デブリの取出し・保管に向けた性状評価をテクニカルテーマとして第1回 CLADS 廃止措置研究国際ワークショップを11月10日に茨城県東海村で開催した。参加者数は128名であり、そのうち外国人は21名であった。

また、海外からの研究者の招へい、公募事業への応募、キャリア採用、海外調査、等を廃炉基盤研究プラットフォームの準備と並行して実施してきた。

(2) 当面の活動内容

研究開発マップのドラフト版を年度末に取りまとめることを目標とする。研究開発マップの作成に向けた議論を行うため、第1回廃炉基盤研究プラットフォーム運営会議を12月中に開催する。

また、次年度以降に向けて、国際ワークショップを企画し、プラットフォーム活動の中に位置づける。

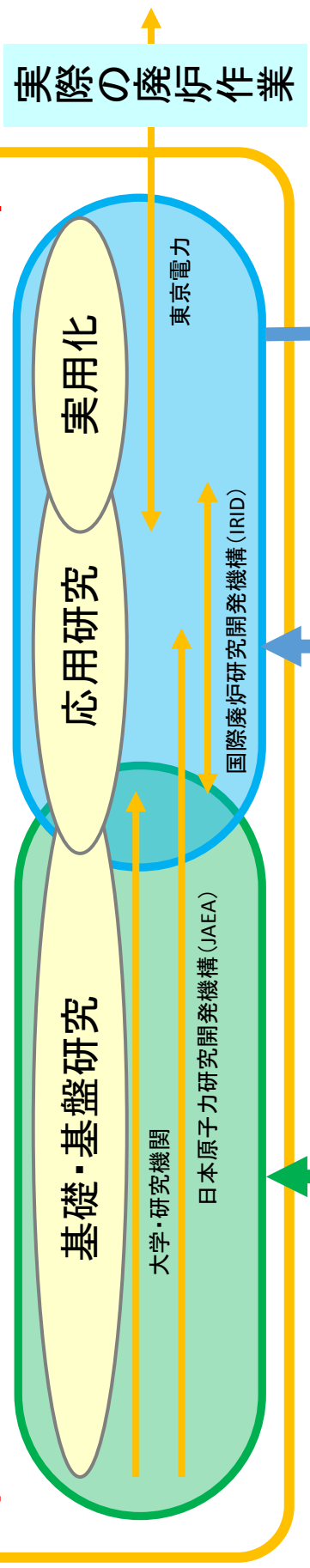
以上

原子力損害賠償・廃炉等支援機構

廃炉研究開発連携会議

年2~3回開催

基礎から応用まで一元的にマネージメント



- 戦略プランに基づく基礎・基盤研究の全体マップを提示、更新

- 研究成果提供
- 応用研究・実用化の下支え

- 現場ニーズ、情報の共有

廃炉基盤研究プラットフォーム

- ◆ JAEA (CLADS) と MEXT 人材育成公募事業採択者の共同運営による **基礎・基盤研究の推進協議体**
- プラットフォームは広く開かれたものであり、国内外の多くの研究者、研究機関の参加が得られるよう運営する。
- ◆ **バザールのアプローチ**
- ミッションを明確にして、ストラテジックに基礎・基盤研究の全体マップを作成、適時更新。
- 多様なプレーヤー（大学、研究機関、企業、事業者）が専門知識、技術、アイデアを持ち寄り連携し、競い合う。
- 研究成果をタイムリーに提供。基礎・基盤研究成果を応用研究、実用化、実際の廃炉作業につなげる。
- JAEA が設置する国際共同研究棟の整備・有効活用への積極的な参画。
- 顕在化していない課題の掘り起こしによる長期的なりリスク管理。
- 研究活動は研究グループ等を設置して対応。

◆ JAEA(CLADS)、MEXT人材育成公募採択事業者の共同運営による廃炉に向けた基礎・基盤研究の推進協議体。

- プラットフォームは広く開かれたものであり、国内外の多くの研究者、研究機関の参加が得られるよう運営する。

◆ NDF、IRID、東京電力、その他関連機関はオプザバーとして運営会議に参加。

◆ 国際共同研究棟が参加メンバーの活発な研究活動の場となるよう仕組みを構築。

◆ 参加メンバーは、研究テーマの公開等により広く周知して集める。

◆ 廃炉に向けた基礎・基盤研究の中心的役割

- NDF戦略プランを参照しつつ、基礎・基盤研究としての研究開発マップを作成。
- 廃炉にかかわる基礎・基盤研究のマップを適時に更新し、広く基礎基盤研究・技術開発コミュニティと、また、プロジェクト推進側と共有。
- 事業者である東京電力、応用研究を実施しているIRID等から1F廃止措置に向けたニーズを共有するため定期的な情報交換を実施。
- 顕在的なニーズにとらわれないことなく、基礎・基盤の立場から全体を把握する努力を重ねることで研究開発をトータルに進める。また、これにより中長期のリスク管理に資する。
- 幅広い分野のメンバーの参加により研究グループを構成する等して参加メンバーの力を集約。
- 廃炉に関わる課題を他分野の専門家に分かりやすく伝えることにより、可能な限り多様なプレーヤーの参加を求める。

◆ 研究開発に必要な人材の育成・活用

- JAEAと大学間での人事交流を促進。
- 相互研究交流を行うことによる人材の育成。
- 人材育成の対象を学生のみではなく、キャリアパス形成にも役立つように若手研究者も視野に入れる。

◆ 国際共同研究棟の活用

- 国際共同研究棟の整備段階からコンセプト作成に関与。
- 参加メンバーによる共同研究を実施、研究設備を共同利用。
- 福島における研究開発のシンクタンク的作用を果たすような仕組みを構築。